

燃料プールへの注水の件

4号機、3号機の注水は無理があるでしょう。燃料集合体が立っているなら、500トンの水が「常に」必要です。1000坪の5Fフロアのなかの30坪の燃料プールに、500トンの水を入れることは、素人でも不可能と分かります。

火事を消したり、高温の鉄を冷やす場合との大きな違いは、高温の鉄は一度冷やせば、温度は上がりません。燃料の温度は、一度冷やしても、崩壊熱なので、また上がります。家人が「要するにゾンビなのね」と言っていました。そうです。殺す方法は無いのです。崩壊熱は、燃料の元素が崩壊する時に出るので、これを止める方法はありません。ですから、今後、ずっと水を掛け続けなければなりません。

NRC委員長が「4号機プールに水は完全にはない」との議会証言をしたとのニュースがありました、彼の配下に4000人がいて、この発言を裏付けているはずで、彼自身もこの分野の専門家だそうです。4号機プールに水は完全にはないのは確かです。

4号機の燃料プールの燃料は崩落を始めています。3号機の燃料プールも、時間の問題です。これを防ぐ方法はありません。

- 1) 散水をやめて、コンクリートを流しこんで、放射能飛散と放射線低減を図るのが、今すべきことでしょう。また、
- 2) 1/2/3号機の炉心の冷却に全力を上げるべきです。これも、炉心底部に崩落していると思いますが、水がある限り大丈夫です。

頭の中が真っ白に。

8時の読売NETを読んで、頭の中が真っ白になりました。

使用済み燃料、共用プールにあと6400本

読売新聞 3月18日(金)7時22分配信

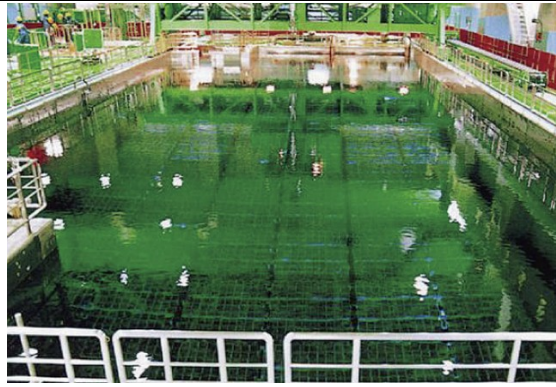
約6400体もの使用済み燃料を貯蔵した共用プールがあり、津波で冷却装置が故障し、水温や水位の変化を把握できなくなった。すでに数年以上冷却されているため、ただちに爆発する危険は少ない。

ここには原子炉10基分の燃料体があります。しかも、原子炉のような防護設備は全くありません。薄いコンクリート壁で、壁は数百度になったら崩壊します。

いずれ、4号機と同じく、水が蒸発し、燃料が崩壊し、同じこと（一種のチャイナシンドローム）が10回分、同時に起きます。

「審判の日はいつか？」これは科学で分かります。共用プールの「審判の日」は1ヶ月先でした。しかし、安心するのは早いのです。

今のうちに、海水から水を送り、プールの壁に穴を開けて冷却する設備を設置することが可能です。一方、1/2/3/4号機は、1-2週間で、全て崩壊します。これを救う方法はありません。その時に、放射線量は今の数十倍になるでしょう。人間はプールに近づけません（4号機から50mしかない）。誰が工事をするのでしょうか？また、ポンプはいつか必ず壊れます。誰が補修をするのでしょうか？「審判の日」は、それから1ヶ月先です。



2011-3-18 昼